

令和2年度 教育事業（指導者等養成研修事業）
教員免許状更新講習（12年目）

1 事業概要

小学校及び中学校の教諭を対象に、2泊3日の講習を実施した。1日目は、学校教育の現状と課題についての講義、カヌー実習を行った。2日目は、肱川河原の岩石や水生生物を教材とした地学及び生物の実習、講義を行った。3日目は、野外炊飯の実習後、体験活動の意義についての講義を行った。

参加者は、学級経営及び教科指導に生かせる体験活動の知識や指導技術を学ぶことができた。

2 事業の目的（ねらい）

地域の自然環境を生かした「生活科」、「理科」、防災や環境をテーマにした「総合的な学習の時間」を指導するために必要な知識や指導技術を身に付けられるようにする。また、体験活動の重要性について理解を深め、学級経営に役立つ指導法の習得を目指す。

3 企画のポイント

子どもたちの社会性や豊かな人間性を育むためには、発達段階に応じた体験活動の充実を図る必要がある。そのためには、まず教員自らが様々な体験活動を行うことで、必要な知識や指導技術を習得するとともに、その意義を理解することが重要であると考え、体験活動を中心として企画した。

4 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立大洲青少年交流の家

5 期 日 令和2年8月3日（月）～5日（水）

6 場 所 国立大洲青少年交流の家（肱川カヌー場付近の河原を含む）

7 対 象 小・中学校教諭（養護教諭・栄養教諭は除く）

8 参加者 24名

9 講師 佐野 栄 氏（愛媛大学教育学部 教授）
向 平和 氏（愛媛大学教育学部 准教授）
中島 弘二 氏（愛媛県教育委員事務局社会教育課担当係長・社会教育主事）
山岡 晋 氏（内子町教育委員会教育長）
国立大洲青少年交流の家 企画指導専門職

令和2年度 国立大洲青少年交流の家 教育事業

「教員免許状更新講習」のお知らせ

◇ 期 日 令和2年8月3日（月）～5日（水） 2泊3日
◇ 会 場 国立大洲青少年交流の家（肱川カヌー場付近の河原を含む）
◇ 対象・定員 小・中学校教諭 40名（先着順）
◇ 受講料 22,290円
【内訳】
受講料・教材費：18,000円
食費代：3,990円
シーツ洗濯代：300円

◇ 講習内容

期日	講習内容
8月3日（月）	○ 学校教育の現状と課題【講義】 ○ カヌー研修指導の実践【実習】
8月4日（火）	○ 河原で観察【実習】 ○ 岩石・鉱物及び生物の観察と採集 ○ 地学分野【講義】 ○ 採集岩石からの地質推定・四国の地質の説明 ○ 生物分野【実習・講義】 ○ 水生生物の観察と同定、環境指標生物などの説明
8月5日（水）	○ 体験活動の指導法【実習】 ○ 子どもたちにおける体験活動の意義【講義】

※3日間（18時間）通しての講習となり、3日とも履修認定試験があります。

◇ 参加申込
3月16日（月）正午から、国立大洲青少年交流の家ホームページにて、受講エントリーの受付を開始します。必要事項をご入力の上、お申し込みください。

【申込期間】
* 令和2年3月16日（月）正午～令和2年4月30日（木）正午
* 先着順で申込を受け付けます。
* 申込期間であっても、定員に達した場合は、申込を締め切ります。

10 日 程

8/3 (月)	10:00 10:30		12:00 13:30		16:30 19:00 19:30 22:00				
	受付	開講式	講義 「学校教育の現状と課題」	昼食	実習 「カヌー研修指導の実際」 (荒天時:「グループワークゲームの指導法」)	検温・夕食	認定試験	入浴	就寝

8/4 (火)	6:30 9:00 9:15		12:00 13:00		14:15 14:30		16:30 19:00 19:30 22:00				
	起床	検温・朝食	事務連絡	実習 「河原で観察」	昼食	講義 「地学分野」	休憩	実習・講義 「生物分野」	検温・夕食	認定試験	入浴

8/5 (水)	6:30 8:45 9:00		13:00 13:30		15:30 15:45 16:15			
	起床	検温・朝食	事務連絡	実習 「体験活動の指導法」 (昼食:野外炊飯)	休憩	講義 「体験活動の意義」	休憩	認定試験

11 活動内容

【1日目】

「学校教育の現状と課題」講師:山岡 晋 氏

教育をめぐる現状と課題、教育改革等について理解を深め、今後の教育実践につながる知識を習得することができた。

「カヌー研修指導の実際」講師:国立大洲青少年交流の家職員

カヌー研修の教育的効果について理解し、児童・生徒の視点に立った指導方法や配慮事項について学んだ。



【2日目】

「河原で観察」「地学分野」「生物分野」講師:佐野 栄 氏、向 平和 氏

大洲大橋下の河原で、岩石及び水生生物に関する観察と採集を行った。参加者は、河原の石から石灰岩やチャート、砂岩等を探す活動を通して、岩石の種類について学んだ。

午後からの地学分野では、「河原の石から大地のつくりを探る」と題した講義が行われ、肱川流域の河川地形と河原の様子から自然環境を読み取ったり、採集した河原の岩石から大地の成り立ちを考えたりした。また、生物分野では、採集した水生生物の種名を調べたり、環境調査の方法について学んだりした。



【3日目】

「体験活動の指導法」講師：国立大洲青少年交流の家職員
体験活動における安全管理の基本として、リスクマネジメントについて研修を深めた。活動前と活動中の安全管理及び事故への対応方法についてもグループで話し合った。

その後、野外炊飯場でカレー作りを行った。参加者の中には、交流の家に子どもたちを引率して野外炊飯を指導している方もいたが、「安全管理の視点に立った活動展開については改めて考えさせられた」と言われていた。野外炊飯前にリスクマネジメントに関する研修を行ったことが効果的であったと思われる。

「子どもたちにおける体験活動の意義」講師：中島 弘二 氏
「子どもの心をはぐくむ体験活動」と題した講義が行われ、無人島体験事業の体験談を通して、体験活動の必要性と教育的効果について学んだ。



12 参加者の声

参加者の事後アンケート結果を以下に示す。

*満足：83.3% *やや満足：16.7% *やや不満：0% *不満：0%

内容が充実しており、とても勉強になりました。

コロナ禍で大変な時期ではありますが、学級経営に役立つ体験活動の意義やあり方について学ぶことができよかったです。

新型コロナウイルス感染症の影響をふまえた教育活動の展開のイメージをもつことができました。

13 事業の成果

事後アンケートから、参加者のニーズに合った活動ができたのではないかと考えられる。教員自らが体験活動をすることで、体験活動の意義や教育的効果について体感できるような本事業のスタイルを今後も継続していきたい。

14 事業の課題

今年度は、当初 35 名の方が申し込まれていたが、直前になって 11 名のキャンセルがあった。新型コロナウイルス感染症の心配からキャンセルされた方が大半だが、参加者の中には、宿泊をやめて日帰りにした方が 5 名いた。原則 2 泊 3 日で研修を受けるということで参加者を募集しているが、社会状況や家庭環境等を考慮し、より多くの方が参加しやすいように、募集の仕方について検討する必要がある。

(担当：企画指導専門職 村中 昭広)